

叢書インテグラレ 020

核時代の科学と社会

初期原爆開発をめぐるヒストリオグラフィー

市川 浩（広島大学大学院 人間社会科学研究科 教授）著
四六判 192 頁 本体価格 1,900 円 ISBN 978-4-621-30699-4
2022 年 1 月下旬刊行予定 ※本書の新刊委託配本はございません

最新の研究による核兵器誕生秘史

第2次世界大戦期から冷戦初期にかけて、アメリカ、ドイツ、日本、ロシアの各国で秘密裏に進行していた原爆開発計画。

近年ようやく全体像が明らかになったその内容を題材に、核兵器がどのような経緯のもとに誕生したのか、そして冷戦下の諸国家と科学・科学者はどのように作用し合ってきたのか、最新の研究成果を用いながら検証する。



※書影はシリーズ既刊のものです

目次予定

- 序章 1998 年の問い—“冷戦型科学・技術体制”は克服できるか？—
- 第 1 章 前夜—大量破壊への動員—
- 第 2 章 “今なら言える (Now it can be told.)”—「マンハッタン計画」の実像—
- 第 3 章 大量破壊兵器開発への接し方-ドイツにおける原爆開発計画—
- 第 4 章 “君たち、戦争に行かなくてもすんだよ。”—日本における原爆開発計画と科学者—
- 第 5 章 “ロシアは自力でやる！”—旧ソ連における原爆開発計画—
- 第 6 章 原子の“荒れ野”から—核兵器製造施設群のその後—

新刊注文書 丸善出版発行 注文（返条付）	ご注文数	貴店番線印
<p>叢書インテグラレ 020 核時代の科学と社会 四六判 192 頁 本体価格 1,900 円 ISBN 978-4-621-30699-4 2022 年 1 月下旬刊行予定 ※本書の新刊委託配本はございません</p>	冊	